

カンボジアの障がいのある子どもたちの「生きる」を支援する。

SROLANH NEWS

発行：NPO 法人スロラニプロジェクト
〒655-0049
兵庫県神戸市垂水区狩口台4丁目31-505
TEL：090-9982-4032
Email：srolanhproject@gmail.com

チョムリアップスオ！～ごあいさつ～ NPO 法人スロラニプロジェクト代表 飯塚 由美子

今年は、新型コロナ感染症そして、今までにない夏の暑さでしたが、皆様、お元気で過ごしてでしょうか？

お蔭様で、カンボジアで支援させていただいている子ども達やスタッフたち、そして、スロラニのメンバーは、元気で過ごしています。今年3月頃からのコロナ禍により、7月の現地活動は中止となりました。ただし、現地スタッフのパンナさんが、定期的に皆様から頂戴している支援金で、村の障害児や、孤児院センターの子ども達に対して、お米や栄養のある食事をお届けすることが出来ています。又、ピッチさんから「村で井戸が必要」との連絡が入り、井戸建設も進めています。

カンボジアもコロナの感染対策として、渡航制限が厳しく、観光業は成り立たず、次々とホテルが倒産しているそうです。日本人もシェムリアップで現地の方の自立支援として手作りかばんや、アロマなどの就労支援をされていたお店も、継続が不可能になり帰国されています。

私たちも、いつ現地に行くことが出来るか、心穏やかではありません。ただ、パンナさんが送ってくれる現地の子どもの近況報告が待ち遠しく楽しみです。

今回は、カンボジアの洪水被害の現状を中心に現地報告をさせていただきます。



いつも元気なサット君

コロナ禍で私たちができること モンテッソーリアン 浅原 奈緒子

新型コロナが世界中で猛威を震い始めた頃、今後の支援について会議を開き、感染症対策等の入念な打ち合わせを行った結果、今年の2月にはカンボジアで活動することができました。しかし、それを最後に今年はカンボジアでの直接支援はできない状況が続いています。

これまでのカンボジアでの活動は、日本で活動の準備や打ち合わせを行い、飛行機の乗り継ぎの時間などを使って最終打ち合わせを済ませ、空港へは現地のスタッフが迎えにきてくれて、カンボジアに着くとすぐに次の日からの準備に取り掛かっていました。現地のスタッフは私たちが日本にいる間、カンボジアの貧困家庭や障害児者が暮らす村へパンや豆乳を私たちに代わって届けてくれています。

カンボジアは厳しい入国制限などで新型コロナの感染率は低いようですが、外国からの観光客が来ないことで職を失い、生活していくことができなくなっている方が大勢います。日本でも同じようなことが起こっていますが、カンボジアではほとんど国からの援助が受けられない上に、洪水で作物も思うように育たない現状があります。今、私たちが日本からできることはカンボジアの方々が命を繋ぐために食べ物などを支援することではないでしょうか。今も、現地のスタッフは洪水で道がなくなってしまった村まで食べ物を運んでくれています。とても真面目で心優しい現地のスタッフに感謝しています。

日本では、活動内容はそれぞれの専門分野や役割によって異なりますが、スロラニメンバー全員が自分のできることを精一杯頑張っています。

障害児支援が専門の私は、電話やメールを使って飯塚代表と共に学校や幼稚園の先生方への障害児支援を継続しています。村の障害児たちに対しても現地のスタッフから様子を聞きながら進めています。

カンボジアへ行くことのできない今、カンボジアのことが、とても懐かしく思い出されます。潤沢な資金があるわけではないので、日本から飛行機の手荷物として運んだ車椅子を、村の足が不自由な女性に使ってもらったり、市場へ孤児院の子ども達が大好きな豚肉を買いに行ったりしていました。

カンボジアの小学校で先生方や子どもたちに講義や授業をさせてもらったことは、日本の福祉雑誌にも掲載され、日本人の世界に向けた社会貢献の一つとして、これから頑張っていかなければならない大切な使命となっています。



スロラニ会議の様子



カンボジアの幼稚園にアドバイスをする浅原



毎月の食糧支援



月刊誌「さぼーと」活動紹介記事

私たちは、新型コロナにより、より一層深刻化しているカンボジアの人々の生活を少しでもお手伝いしたいという思いで活動を継続しています。そして、以前のような質素でも豊かな食べ物が並ぶ食卓に戻れることを切望しています。どうか、みなさまのお力添えをお願いいたします。

カンボジア井戸支援～マジックを握りしめて～ 作業療法士 山本 康典

今年の2月、カンボジアに行く2週間前に母が急に亡くなり、慌ただしく葬式をあげ母を見送ることになりました。3年前に父は亡くなっていましたので、実家は誰も住まなくなり、週末ごとに実家の大掃除に明け暮れていました。そんな時、石倉さんがご両親の名前でカンボジアに井戸を作るという話を聞きました。カンボジアに行った時に新しい井戸が、それぞれの村でどのように使われているのか、どれだけ大事にされているのかを見せていただいていたので、すぐに姉に相談しましたところ、「いい話やん！」の一言返事で、私も両親の名前でカンボジアに井戸を作っていただく事になりました。もちろん両親が遺してくれたお金ですが(笑)。

服部さんに両親の名前を伝えると、間もなくして両親の名前が書かれた看板の前に作られた井戸と、それを利用してくださっている人たちの写真が送られてきました。嬉しくてすぐに現像し仏壇の前に飾っていましたが、それを見た姪が一言、「おじいちゃんの名前間違えてるやん」……。そうなんです、親不孝者の私は、父の名前を間違えて伝えてしまっていたのです。だから今の私の目標は、カンボジアにある両親の井戸に行き、マジックで父の名前を修正することです。マジックを握りしめながら、カンボジアに行ける日を心待ちにしている私です。

【井戸支援の住所】

Outor teung Village, Preach Dak Commune, Banteaysrey District, Siem Reap Province

【井戸支援の家族構成】

リッチ・ラーさん(父) 無職 / リアム・ティアさん(母) 森の葉っぱをとって市場に売りに行っている。子ども4人



カンボジア、全国で洪水被害！被災者多数！ 現地報告

カンボジアでは水上で暮らす人々がいることは皆様ご存じかと思いますが、下に掲載させていただいている写真は水上生活の写真ではなく現在のカンボジアの洪水被害を撮影したものです。

現在、カンボジアでは集中豪雨による洪水の被害が甚大で20万人近くの方々が被災されているようです。死者もイキイキゲストハウスのビチュットさんの話では10月22日時点で34人とのことです。

現地スタッフのパンナさんからは、幸いシェムリアップ州の中心街やスロラニプロジェクトが支援する障がいのある子どもたちへの被害は今のところ、出ていないようです。

カンボジアでは、政府からの報告ですと新型コロナウイルスの感染拡大は防げているようで、これまでの感染者は283人ですが、そのうち277人は回復して、死者は出ていないとのことです。

しかし、観光業を中心に経済が成り立っていたシェムリアップ州に住む人々にとっては新型コロナウイルスで仕事が無くなった上に今回の洪水被害で更に生活が困窮しているようで現地スタッフのパンナさんやいつもスロラニプロジェクトの活動に参加しているピッチさんからは連日、特に村に住む人々が仕事が無くて生活するのに困っているというメッセージが送られてきています。

新型コロナウイルスに関しては水際対策で、現在は医療崩壊が起きていないようですが、連日の豪雨で気温が下がり、衛生環境が悪化するなか、今後、感染症や病気を恐れる恐れもあり、特に村に住む障がいのある子ども達の健康状態を危惧してやみません。



義援金のお願
い
コロナ及び洪水等

【銀行振込】

みなと銀行 支店：明舞支店(普)

口座名：特定非営利活動法人スロラニプロジェクト 理事長飯塚由美子

口座番号：3895462

【郵便振替】

加入者名：特定非営利活動法人スロラニプロジェクト

口座記号番号：00980-1-172480 ※恐れ入りますが、手数料についてはご負担をお願いします。

